

## KUBIC 受賞報告

第 20 期 中村 友亮

### ◆KUBIC とは...?

KUBIC とは、関西大学が主催する、「学生の力」をキャッチ・フレーズとして、若い力を発信するためのビジネスプラン・コンペティションです。この KUBIC には、企業から指定されたテーマに沿ったビジネスプランを応募する、企業テーマ部門と、自由な発想で考えたビジネスプランを応募する、自由応募部門が設けられています。また、企業から指定されたテーマに沿ったビジネスプランであっても、予算計画書を作成すれば、そのプランを企業テーマ部門と自由応募部門の双方に応募することが可能です。

今年 20 期生有志 2 チーム参加し、企業テーマ部門に 2 案を応募しました。そして、20 期有志 1 チーム（中村、有田、二宮、松崎）が、多くのビジネスプラン案の中から厳正な審査を経て、優秀賞を受賞いたしました。

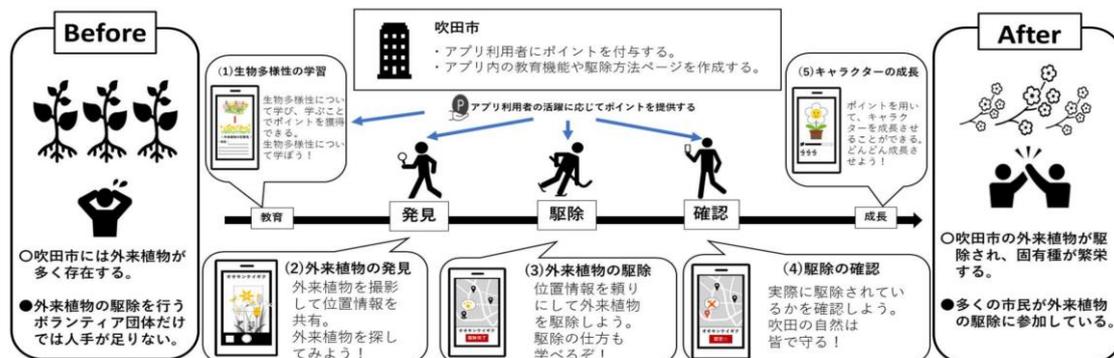
### ◆プランの概要

・出題企業：大阪府吹田市

出題テーマ：市長、これからの社会にはこれが必要なんです～社会を変える新しい公共ビジネス～※君たちの自由な発想求む！！

提案プラン：すいたでぬいた ～外来植物バスターズ～

優秀賞を受賞した第 20 期生有志チームが提案したビジネスプランは、吹田市が、市民に生物多様性の重要性を学んでもらい、外来植物の駆除活動への参加を促すプランです。具体的には、専用ゲーミングアプリを開発して市民に無料配信し、市民に、(1)まずは、生物多様性について学んでもらった上で、(2)吹田市内において外来生物を発見したり、(3) 発見された外来生物を駆除したり、(4)駆除されたことを確認したりすることによって、ポイントを付与する。(5) そのポイントによってアプリ内のキャラクターを成長させることができ、それがインセンティブとなって、さらなる活動(1)～(4)を促すといったものです。



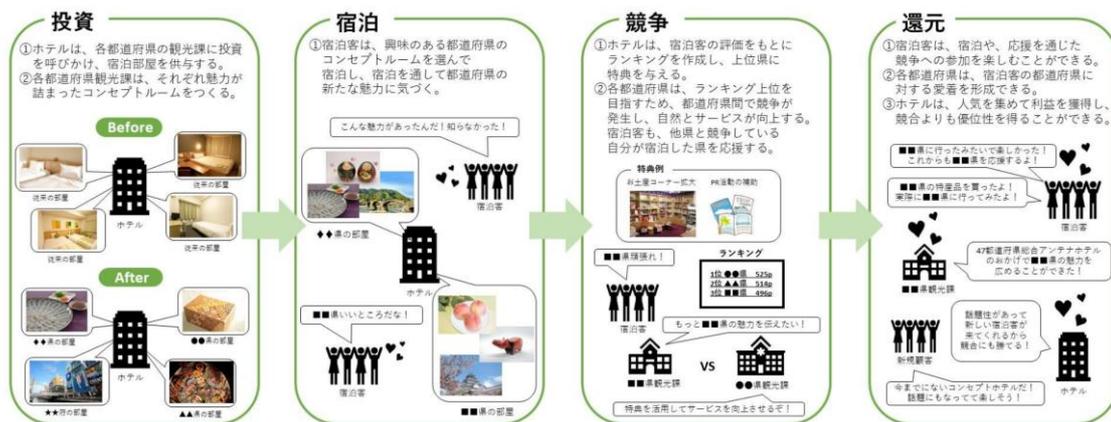
◆プランの概要

・出題企業：センコーグループホールディングス

出題テーマ：「日本の魅力アップに向けた新たな事業の提案」 ～地域活性化，トキ消費，ホテル・観光事業などの提案～

提案プラン：47都道府県総合アンテナホテル

2組目の第20期生有志チームが提案したビジネスプランは、各都道府県が競い合いながらそれぞれの魅力を宿泊客に伝えることで地域活性化に貢献するコンセプトホテルです。各都道府県には、隠れた魅力がたくさんありますが、新型コロナの影響もあり、県外在住者がそれらの魅力に気づく機会はますます減っています。そこで、気軽に旅行気分を体験でき、かつ地域の魅力に触れる機会も創出する本施策を提案します。まず、ホテルが各都道府県の観光課に宿泊部屋を供与し、各県の観光課は、地域の魅力が詰まったコンセプトルームをそれぞれ自由につくります。顧客は、興味のある都道府県の部屋を選んで宿泊し、地域の魅力に触れながら滞在期間を楽しみます。ホテルは、宿泊した顧客の評価をもとにランキングを発表し、ランキング上位県にはお土産スペース拡大などの特典を付与します。これにより、都道府県間に競争が発生し、自然とサービス向上が図られます。



◆活動後記

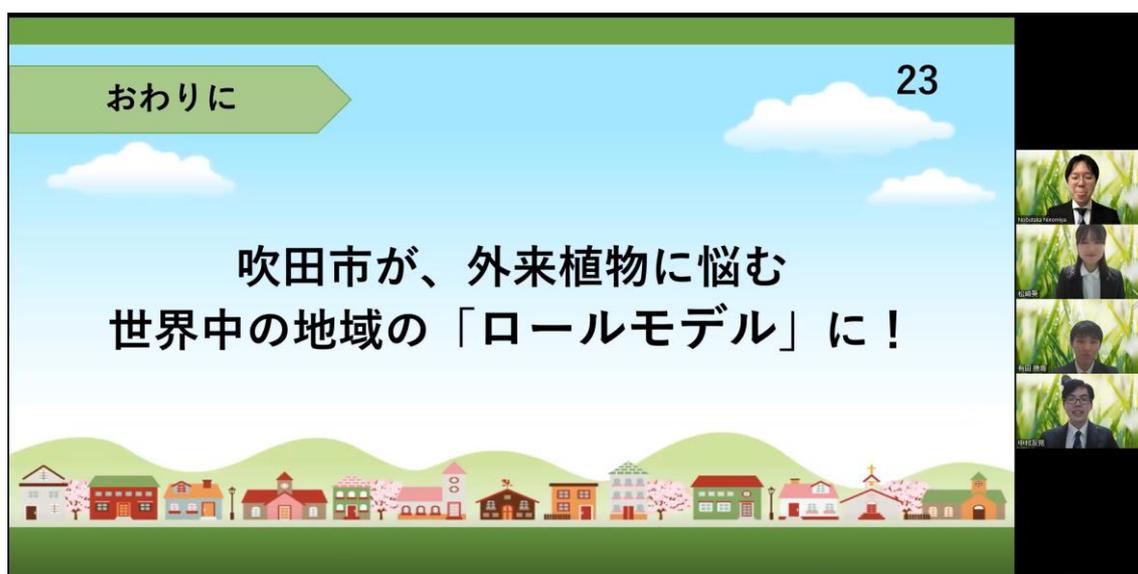
小野ゼミ生として慣れない日々が続く中、私たちは、コトラーとディベート練習と並行して、ビジネスコンテストに取り組みました。ビジネスコンテストを経験した先輩方からは、プランを考えることの面白さや、それを完成されることの達成感を教えてくださいました。我々20期生は期待を膨らませながら、ビジネスコンテストに取り組みました。

しかし、活動早々にして、困難に直面しました。20期生の誰もが、KUBICで入賞できるほどのビジネスプランのアイデアを出すことができずにいました。やっとの思いで考えた案も、すでに類似したビジネスが存在し、数十個考えた案はすべて白紙に戻りました。そんな中、新たなアイデアを求め、吹田市のホームページを徘徊していると、特定外来植物に関するページを見つけました。私はこのページをきっかけに、吹田市の生態系が特定外来植物によって破壊されていることを知りました。そこで、吹田市の特定外来植

物問題を解決するアイデアを考える中で、私の趣味であるゲームと特定外来植物駆除を掛け合わせた「すいたでぬいた」というプランが閃きました。当初このプランは、単なる思い付きに過ぎず、ビジネスプランとしては不十分でした。しかし、先生や先輩方、同期からの数多くのアドバイスと、幾度も協力していただいたおかげで、優秀賞を受賞するほどのプランへと成長することができました。

KUBIC を振り返り、特に印象に残っていることは、本選に向けての準備です。私たちの班は、過密なスケジュールで、KUBIC 本選会に向けての準備を行いました。というのも、本選会出場の案内が郵送で送られるのですが、私は住所を記載する際、アパートの部屋番号を書き忘れる重大な失態を犯してしまいました。本来 9 月上旬に結果の通知が郵送にて届くのですが、9 月下旬に KUBIC 事務局から電話をいただくことで、本選会出場の旨を知りました。私は嬉しさよりも、やってしまったという失敗による後悔や虚無感から、青ざめていたのを今でも覚えています。9 月下旬に結果を知った私たちに残された準備期間は 2 週間であり、本来の半分しか期間がありませんでした。プレゼン資料の作成から、プレゼン動画の撮影、採算計画の見直しをこの短期間で成し遂げる必要があります。私は絶望しました。しかし、この絶望から救ってくれたのは、同じ班チームのメンバーでした。三田祭論文とも重なり、多忙な日々を送っていたのにもかかわらず、根気よくビジネスプランを完成させるために付き合ってくれたチームメンバーには感謝しきれません。彼らのおかげで、限られた準備期間であったものの、自分たちが納得いくまでプランを見つめ直し、万全の状態で大選会に臨むことができました。

先生や先輩方の協力のおかげで、我々第 20 期生は「すいたでぬいた」、「47 都道府県総合アンテナホテル」といった秀逸なプランを提案することができました。残念ながら、最優秀賞を得ることは出来ませんが、素晴らしいプランを提案することができたと自負しております。両班ともに、小野先生や先輩方の指導の下、プランを提案できたことを誇りに思います。本当にありがとうございました。



KUBIC 本選会  
(上から、二宮、松崎、有田、中村)